

優秀賞

未来のわたしへ

宮城県大崎市立古川北中学校

3年 佐々木 護助

「僕の夢は、お父さんのようなカッコイイ酪農家になることです。」

わたしが、小学校6年生の卒業式で、先生たち、保護者の方々、同級生たち、みんなの前で言った言葉です。

わたしの父は酪農業を営んでいます。現在約40頭のメス牛を飼っています。わたしの父は毎朝5時に起床し、自宅から車で5分ほど離れた牛舎へ行き、牛の餌やり、堆肥出し、搾乳などの仕事をしています。朝と夕方の2回搾乳をしています。

わたしは、物心ついた頃から、そんな父の姿を見て、
「お父さんは、すごい。」

と、父への憧れを持つようになりました。今も学校が休みの時は父と一緒に牛舎へ行き、父の手伝いをするのが、わたしの習慣になっています。

休日になると、わたしは、兄と一緒に牛の餌やりと堆肥出しをします。毎月、出産する母牛がいるので、わたしは母牛が子牛を安全に出産できるように助産師の役割をすることもあります。産気づいた母牛から子牛の頭が出ている時、子牛の前脚にチェーンとロープを付けて、父と母と兄とわたしの4人で綱引きのように子牛の前脚を引っ張って、子牛が出やすくなるように補助してあげるのです。これは、なかなか出てこられずに呼吸困難になってしまう子牛や、へその緒が絡まって窒息してしまう子牛を防ぐためです。毎月、元気に産まれてくる子牛ばかりではないので、牛のお産の時はいつもよりも気が引き締まります。安産で元気に産まれてきてくれたり、双子だったりすると、とても嬉しくなります。子牛はいつ見ても可愛いので、わたしの癒やしになっています。産まれた子牛に母牛の初乳を飲ませてあげることも、わたしの仕事のひとつになっています。父が搾乳した母牛の初乳を哺乳バケツに入れて、わたしが、その哺乳バケツまで子牛を誘導し、うまく飲めるように補助してあげます。産まれたばかりの子牛は、あまりよく目が見えないので、最後までしっかり初乳を飲んでくれると安心します。

3年前の3月に、わたしの家では、ロボット技術を利用した搾乳ユニット自動搬送装置キャリロボを導入しました。これを取り入れる前までは、父が手で搾乳機械を牛の前まで移動させていましたが、導入後は、つなぎ牛舎に設置したチェーンのレール上を搾乳機械が自動で搾乳する牛の前まで移動してくれ

る画期的なロボット技術です。

わたしは、初めてこの機械を見た時、
「すごい。搾乳する牛の所まで機械が動くのか。」
と感動したことを覚えています。

父は、このロボットを導入してから、
「仕事が楽になった。」
と話していました。このロボット技術の目的は肉体労働の軽減、搾乳時間の短縮、効率的な経営だと父から聞いていました。

わたしの地域では、酪農家に限らず、農業を営んでいるのは、高齢のおじいさんやおばあさんが多いです。そのため、このロボット技術やＩＣＴなどの先端技術がこれから、ますます農業に進出してくるだろうと思っています。もしかしたら、わたしが酪農家になる頃には、餌やりも堆肥出しもロボットがしてくれるような時代になっているかもしれません。そう考えると、未来の酪農や農業がどうなっているのか楽しみです。

わたしは今、もっと酪農や農業についての知識を増やしたいと思っています。そのため農業高校に入学したいと考えています。そこで、いろいろなことを学び、経験して、宮城県内で農業を営んでいる高齢の方々が楽に農業経営ができる仕組みを考えていきたいと思っています。

10年後、20年後のわたしへ

わたしは、父のようなカッコイイ酪農家になっていますか。

14歳のわたしは、今、憧れの父のようになりたいと未来に向けて努力しています。地域のみんなが笑顔で楽しく幸せに暮らしていけるように自分ができることに積極的に取り組んで、目標に向かって歩んでいきます。

未来のわたし、楽しみに待っていてください。